

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2022年7月15日

【四半期会計期間】 第85期第2四半期(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

【会社名】 モリト株式会社

【英訳名】 MORITO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 一坪 隆紀

【本店の所在の場所】 大阪市中央区南本町4丁目2番4号

【電話番号】 06-6252-3551

【事務連絡者氏名】 取締役 上席執行役員 管理本部長兼経営管理本部長 阿久井 聖美

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区南本町4丁目2番4号

【電話番号】 06-6252-3551

【事務連絡者氏名】 取締役 上席執行役員 管理本部長兼経営管理本部長 阿久井 聖美

【縦覧に供する場所】 モリト株式会社東京事務所
(東京都台東区駒形2丁目4番8号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第84期 第2四半期 連結累計期間	第85期 第2四半期 連結累計期間	第84期
会計期間		自 2020年12月1日 至 2021年5月31日	自 2021年12月1日 至 2022年5月31日	自 2020年12月1日 至 2021年11月30日
売上高	(千円)	21,225,009	23,207,081	43,636,848
経常利益	(千円)	885,211	1,219,876	1,834,260
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	533,685	879,944	1,407,207
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,399,739	1,577,826	2,346,941
純資産額	(千円)	33,282,919	34,652,136	33,914,870
総資産額	(千円)	44,712,114	46,764,088	45,938,224
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	19.49	32.51	51.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	74.31	73.98	73.70
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,489,370	161,699	2,644,023
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	738,885	204,009	401,707
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	696,627	1,187,750	1,380,332
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	10,214,503	10,005,079	11,020,111

回次		第84期 第2四半期 連結会計期間	第85期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年3月1日 至 2021年5月31日	自 2022年3月1日 至 2022年5月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	8.95	15.98

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等につきましては、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるものとして認識している主要なリスクの発生は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大及びウクライナ情勢の悪化以外はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染拡大及びウクライナ情勢の悪化による事業への影響につきましては、今後も引き続き注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間(2021年12月1日～2022年5月31日)における経営環境は、欧米に続き国内でも経済活動が持ち直しの動きが見られました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による中国上海のロックダウン、ウクライナ情勢等による原油価格の上昇に伴う原材料費の高騰、為替の変動といった様々なリスクが重なり、かつてなく先行きが不透明な状況が続いております。

主にアパレル関連、プロダクト関連、輸送関連の事業を行う当社グループにおきましては、当社主力商品の原材料の価格高騰や調達難、半導体不足による自動車メーカーの減産や生産停止、海上輸送の遅れや運送費の高騰といった利益を押し下げる要因が多い状況でありました。しかし一方で、流行に左右されないメディカルウェア、作業服関連のビジネスが好調に推移しました。また、ヨガやフィッシングなどスポーツ関連商品や医療機器関連商品をはじめとする機能性に優れた付属品や製品、モリトグループで取り組む環境配慮型の付属品や製品など、高付加価値商品の開発・販売や、新規取引の獲得に注力しました。さらに、運送費など経費の見直しを継続して実施し、収益力が大幅に改善されました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高232億7百万円(前年同期比9.3%増)、営業利益11億1千7百万円(前年同期比44.1%増)、経常利益12億1千9百万円(前年同期比37.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益8億7千9百万円(前年同期比64.9%増)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を適用しており、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億6千万円、営業利益は3千4百万円、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1千万円それぞれ減少しております。

なお、当第2四半期連結累計期間における、海外子会社の連結財務諸表作成に係る収益及び費用の換算に用いた為替レートは、次のとおりです。

	第1四半期	第2四半期
米ドル	113.71 (104.51)	116.34 (106.09)
ユーロ	130.04 (124.58)	130.40 (127.80)
中国元	17.78 (15.81)	18.31 (16.38)
香港ドル	14.60 (13.48)	14.90 (13.68)
台湾ドル	4.09 (3.67)	4.16 (3.78)
ベトナムドン	0.0050 (0.0045)	0.0051 (0.0046)
タイバーツ	3.41 (3.42)	3.52 (3.50)
メキシコペソ	5.48 (5.08)	5.67 (5.21)

(注) ()内は前年同期の換算レートです。

セグメント別の経営成績につきましては、以下のとおりです。

(日本)

アパレル関連では、欧米向けの作業服・メディカルウェア向け付属品、カジュアルウェア向け付属品、スポーツウェア向け付属品の売上高が増加しました。

プロダクト関連では、医療機器関連商品、均一価格小売店向け商品、建築現場向け安全関連商品、スノーボード・サーフィン関連商品の売上高が増加しました。

輸送関連では、日系自動車メーカー向け自動車内装部品の売上高が増加しました。

その結果、売上高は161億8百万円(前年同期比10.0%増)、セグメント利益は8億6千4百万円(前年同期比29.0%増)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2億6千万円、セグメント利益は3千4百万円それぞれ減少しております。

(アジア)

アパレル関連では、中国・香港での欧米向け作業服関連付属品、ベトナムでのスポーツシューズ向け付属品の売上高が増加しました。

輸送関連では、半導体不足の影響により、中国での日系自動車メーカー向け自動車内装部品の売上高が減少しました。

その結果、売上高は40億9千7百万円(前年同期比0.5%増)、セグメント利益は3億1千4百万円(前年同期比112.5%増)となりました。

(欧米)

アパレル関連では、作業服向け付属品、カジュアルウェア向け付属品、高級ダウンウェア向け付属品の売上高が増加しました。

輸送関連では、半導体不足の影響により、日系自動車メーカー向け自動車内装部品の売上高が減少しました。

その結果、売上高は30億円(前年同期比19.7%増)、セグメント利益は8千5百万円(前年同期比72.2%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における財政状態の概況は次のとおりです。

総資産は、467億6千4百万円となり前連結会計年度末比8億2千5百万円増加しました。

流動資産につきましては、276億1千9百万円となり前連結会計年度末比6億6千1百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が10億9百万円減少したものの、棚卸資産が11億7千3百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が3億1千1百万円増加したことによります。

固定資産につきましては、191億4千4百万円となり前連結会計年度末比1億6千3百万円増加しました。これは主に、投資有価証券が2億3千6百万円減少したものの、有形固定資産のその他に含まれる機械装置及び運搬具が1億5千7百万円増加したこと、投資その他の資産のその他に含まれる繰延税金資産が1億1百万円増加したこと、有形固定資産のその他に含まれる使用権資産が6千6百万円増加したこと等によります。

流動負債につきましては、78億3千5百万円となり前連結会計年度末比3億2千7百万円増加しました。これは主に、その他に含まれる有償支給に係る負債が1億6千5百万円増加したこと、支払手形及び買掛金が1億6千万円増加したこと、未払法人税等が1億5千万円増加したこと、その他に含まれる未払費用が1億6千6百万円減少したこと等によります。

固定負債につきましては、42億7千6百万円となり前連結会計年度末比2億3千8百万円減少しました。これは主に、長期借入金が1億4千万円減少したこと、その他に含まれる繰延税金負債が9千5百万円減少したことによります。

純資産につきましては、346億5千2百万円となり前連結会計年度末比7億3千7百万円増加しました。

なお、自己資本比率は前連結会計年度の73.7%から74.0%と0.3ポイント増加しました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ10億1千5百万円減少し、100億5百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1億6千1百万円の収支プラス(前年同期14億8千9百万円の収支プラス)となりました。これは主に、棚卸資産の増加により資金が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益の獲得により資金が増加したものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億4百万円の収支マイナス(前年同期7億3千8百万円の収支マイナス)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出により資金が減少したものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、11億8千7百万円の収支マイナス(前年同期6億9千6百万円の収支マイナス)となりました。これは主に、自己株式の取得による支出、配当金の支払により資金が減少したものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間末において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年7月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,800,000	30,800,000	東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数 100株
計	30,800,000	30,800,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年4月30日 (注)	-	30,800	-	3,532,492	3,319,065	-

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振替えたものではありません。

(5) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	2022年5月31日現在
			発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社クラレ	岡山県倉敷市酒津1621番地	2,324	8.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,140	7.82
モリト共栄会	大阪市中央区南本町4丁目2番4号	1,870	6.84
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,700	6.21
カネエム工業株式会社	大阪府八尾市泉町1丁目93番地	1,676	6.12
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,257	4.59
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	702	2.57
モリト社員持株会	大阪市中央区南本町4丁目2番4号	638	2.33
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	448	1.64
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	373	1.36
計		13,131	47.99

- (注) 1 当社所有の自己株式3,436千株(11.15%)は、上記大株主の状況に含まれておりません。
 2 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式373千株及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が所有する当社株式164千株は、自己株式に含めておりません。
 3 モリト共栄会は、当社グループの取引先会社を会員とし、当社グループと会員の緊密化をはかることを目的とした持株会であります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	2022年5月31日現在
			内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,436,300		単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,357,300	273,573	同上
単元未満株式	普通株式 6,400		
発行済株式総数	30,800,000		
総株主の議決権		273,573	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式60株が含まれております。
 2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)所有の当社株式373千株(議決権の数3,733個)が含まれております。
 3 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)所有の当社株式164千株(議決権の数1,648個)が含まれております。

【自己株式等】

2022年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) モリト株式会社	大阪市中央区南本町 4丁目2番4号	3,436,300	-	3,436,300	11.15
計		3,436,300	-	3,436,300	11.15

(注) 株式会社日本カストディ銀行(信託E口)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が所有する当社株式は、上記自己保有株式に含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役職の異動は、次のとおりです。

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役 常務執行役員 事業戦略本部長	取締役 上席執行役員 事業戦略本部長	矢野 文基	2022年3月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年3月1日から2022年5月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年12月1日から2022年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,103,207	10,093,903
受取手形及び売掛金	10,649,689	10,960,903
棚卸資産	1 4,540,605	1 5,713,684
その他	707,446	899,526
貸倒引当金	43,235	48,375
流動資産合計	26,957,713	27,619,641
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,594,174	4,534,989
その他(純額)	5,282,796	5,511,809
有形固定資産合計	9,876,970	10,046,799
無形固定資産		
のれん	2,432,266	2,484,182
その他	1,037,483	1,109,092
無形固定資産合計	3,469,750	3,593,275
投資その他の資産		
投資有価証券	4,485,900	4,249,734
退職給付に係る資産	241,832	239,660
その他	1,014,733	1,151,205
貸倒引当金	108,676	136,228
投資その他の資産合計	5,633,790	5,504,371
固定資産合計	18,980,511	19,144,446
資産合計	45,938,224	46,764,088
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,453,854	4,614,012
短期借入金	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	394,620	280,008
未払法人税等	483,951	634,804
賞与引当金	286,425	282,640
役員賞与引当金	86,065	63,792
その他	1,752,857	1,910,106
流動負債合計	7,507,774	7,835,366
固定負債		
長期借入金	1,703,302	1,563,298
株式給付引当金	32,274	39,022
役員退職慰労引当金	32,158	36,408
役員株式給付引当金	91,650	92,369
環境対策引当金	20,075	21,951
退職給付に係る負債	911,731	881,890
その他	1,724,387	1,641,645
固定負債合計	4,515,579	4,276,585
負債合計	12,023,354	12,111,951

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,532,492	3,532,492
資本剰余金	3,507,603	3,507,603
利益剰余金	26,726,521	27,114,320
自己株式	2,289,615	2,628,578
株主資本合計	31,477,001	31,525,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,321,667	1,128,481
繰延ヘッジ損益	4,612	5,204
土地再評価差額金	451,115	442,187
為替換算調整勘定	641,116	1,535,189
退職給付に係る調整累計額	36,922	30,110
その他の包括利益累計額合計	2,381,589	3,070,543
新株予約権	56,280	55,755
非支配株主持分	-	-
純資産合計	33,914,870	34,652,136
負債純資産合計	45,938,224	46,764,088

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年12月1日 至2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年12月1日 至2022年5月31日)
売上高	21,225,009	23,207,081
売上原価	15,733,368	17,093,342
売上総利益	5,491,641	6,113,739
販売費及び一般管理費	¹ 4,715,777	¹ 4,995,766
営業利益	775,864	1,117,973
営業外収益		
受取利息	4,861	5,158
受取配当金	36,832	30,569
不動産賃貸料	32,849	38,524
持分法による投資利益	22,665	47,418
雇用調整助成金	² 57,914	² 3,413
補助金収入	12,350	18,082
その他	16,776	12,192
営業外収益合計	184,251	155,361
営業外費用		
支払利息	5,419	5,649
売上割引	29,103	-
為替差損	1,052	594
その他	39,328	47,213
営業外費用合計	74,904	53,458
経常利益	885,211	1,219,876
特別利益		
固定資産売却益	-	123,161
投資有価証券売却益	52	-
新株予約権戻入益	420	525
受取保険金	-	70,016
特別利益合計	472	193,703
特別損失		
固定資産売却損	29	569
固定資産除却損	279	648
事業再編損	³ 17,063	-
クレーム解決金	-	⁴ 48,648
特別損失合計	17,371	49,866
税金等調整前四半期純利益	868,311	1,363,712
法人税、住民税及び事業税	414,187	590,479
法人税等調整額	79,561	106,710
法人税等合計	334,626	483,768
四半期純利益	533,685	879,944
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	533,685	879,944

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	533,685	879,944
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	412,767	193,185
繰延ヘッジ損益	38	9,819
為替換算調整勘定	440,841	894,073
退職給付に係る調整額	12,483	6,812
持分法適用会社に対する持分相当額	1	1
その他の包括利益合計	866,053	697,882
四半期包括利益	1,399,739	1,577,826
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,399,739	1,577,826
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年12月1日 至2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年12月1日 至2022年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	868,311	1,363,712
減価償却費	464,810	503,354
のれん償却額	117,167	123,620
賞与引当金の増減額(は減少)	27,705	10,650
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	7,175	22,688
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	16,968	4,554
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3,800	4,250
株式給付引当金の増減額(は減少)	2,518	6,747
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	5,797	719
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,059	24,610
受取利息及び受取配当金	41,693	35,728
支払利息	5,419	5,649
雇用調整助成金	57,914	3,413
補助金収入	12,350	18,082
持分法による投資損益(は益)	22,665	47,418
新株予約権戻入益	420	525
固定資産売却損益(は益)	29	122,591
投資有価証券売却損益(は益)	52	-
固定資産除却損	279	648
売上債権の増減額(は増加)	42,864	32,248
棚卸資産の増減額(は増加)	310,584	939,221
仕入債務の増減額(は減少)	157,823	42,783
その他	42,724	257,214
小計	1,475,000	541,569
利息及び配当金の受取額	41,676	35,728
利息の支払額	5,530	5,689
雇用調整助成金の受取額	38,900	17,708
補助金の受取額	12,350	18,082
法人税等の支払額	73,026	445,699
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,489,370	161,699
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	82,325
定期預金の払戻による収入	4,798	87,123
投資有価証券の取得による支出	19,456	11,321
投資有価証券の売却による収入	1,402	-
有形固定資産の取得による支出	680,577	352,858
有形固定資産の売却による収入	449	211,863
無形固定資産の取得による支出	48,108	55,454
貸付金の回収による収入	3,600	3,000
その他	991	4,035
投資活動によるキャッシュ・フロー	738,885	204,009

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	98,951	110,744
長期借入金の返済による支出	265,000	254,616
社債の償還による支出	200,000	-
自己株式の取得による支出	-	349,117
配当金の支払額	132,676	473,272
財務活動によるキャッシュ・フロー	696,627	1,187,750
現金及び現金同等物に係る換算差額	108,574	215,028
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	162,432	1,015,031
現金及び現金同等物の期首残高	10,052,070	11,020,111
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,214,503	10,005,079

【注記事項】

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、以下のとおりです。

(本人と代理人)

顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から財又はサービスの仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

(変動対価(事後値引きのある取引))

販売実績に応じて事後値引きのある販売について、従来は、値引き実績に基づいて収益を減額しておりましたが、販売時に値引きされると見込まれる商品及び製品の収益相当額を除いた額を収益として認識する方法に変更しており、減額されると見込まれる価格を返金負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。

(一定の返品が見込まれる取引)

一定の返品が見込まれる取引について、従来は、返品実績に基づいて収益及び売上原価を減額しておりましたが、販売時に返品されると見込まれる商品及び製品の収益及び売上原価相当額を除いた額を収益及び売上原価として認識する方法に変更しており、返品されると見込まれる商品及び製品の対価を返金負債として「流動負債」の「その他」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。

(顧客に支払われる対価)

EDI手数料やセンターフィー等の顧客に支払われる対価について、従来は、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

(有償受給取引)

有償受給材を加工した製品を顧客に販売する取引について、従来は、有償受給材相当額を含めて収益及び売上原価を認識しておりましたが、有償受給材相当額を除いた額を収益及び売上原価として認識する方法に変更しております。

(有償支給取引)

有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について棚卸資産の消滅を認識しておりましたが、当社が実質的に支給品を買い戻す義務を負っていると判断される場合、棚卸資産を引き続き認識するとともに、有償支給先に残存する支給品の期末棚卸高相当額を有償支給取引に係る負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用につきましては、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が260,081千円、売上原価は169,270千円、販売費及び一般管理費は56,007千円、営業利益が34,804千円、経常利益、税金等調整前四半期純利益が10,019千円それぞれ減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は27,800千円減少しております。

「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響拡大による会計上の見積りに与える影響)

新型コロナウイルス感染症に伴う会計上の見積りに用いた仮定は、前事業年度の有価証券報告書の追加情報の記載から変更はありません。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1) 取引の概要

当社及び当社の一部のグループ会社は従業員の福利厚生サービスとして当社の株式を給付し、当社の株価の業績との連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として、「株式給付信託(J-E S O P)」(以下「本制度」という。)を導入しております。

本制度は、予め当社及び当社の一部のグループ会社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。当社及び当社の一部のグループ会社は、従業員に個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式につきましては、予め信託設定した金額より将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

本制度の導入により、従業員の勤労意欲や株価への関心が高まるほか、優秀な人材の確保にも寄与することが期待されます。

(2) 信託に残存する自己株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度においては、146,007千円、373千株であり、当第2四半期連結累計期間においては、145,773千円、373千株であります。

(役員報酬B I P信託に係る取引)

信託に関する会計処理につきましては、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 2015年3月26日)に準じております。

(1) 取引の概要

本制度は当社及び当社の一部のグループ会社が拠出する取締役の報酬額を原資として当社株式が信託を通じて取得され、役位別に、各事業年度の売上高と営業利益の達成度に応じて当社及び当社の一部のグループ会社の取締役に当社株式が交付される業績連動型株式報酬です。ただし、取締役が当社株式の交付を受けるのは、原則として取締役退任時となります。

(2) 信託に残存する自己株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度においては、161,334千円、175千株であり、当第2四半期連結累計期間においては、151,414千円、164千株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
商品及び製品	3,590,130	4,346,298
仕掛品	352,442	507,546
原材料及び貯蔵品	598,032	859,838

2 輸出手形割引高

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
輸出手形割引高	19,313	33,183

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
給与手当	1,621,816	1,645,001
賞与引当金繰入額	119,733	242,358
退職給付費用	111,955	93,812
役員賞与引当金繰入額	35,360	59,031

2 雇用調整助成金

前第2四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金を営業外収益に計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金を営業外収益に計上しております。

3 事業再編損

前第2四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

中国における連結子会社の事業再編により発生した費用を特別損失に計上しております。

4 クレーム解決金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

当社製品に対する顧客からのクレームに係る解決金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
現金及び預金勘定	10,292,103	10,093,903
預入期間が3カ月を超える定期預金等	77,600	88,823
現金及び現金同等物	10,214,503	10,005,079

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年2月24日 定時株主総会	普通株式	132,676	4.75	2020年11月30日	2021年2月25日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が、基準日現在に所有する当社株式376千株に対する配当金1,787千円及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が、基準日現在に所有する当社株式175千株に対する配当金834千円を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年7月13日 取締役会	普通株式	251,386	9.00	2021年5月31日	2021年8月6日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が、基準日現在に所有する当社株式373千株に対する配当金3,365千円及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が、基準日現在に所有する当社株式175千株に対する配当金1,580千円を含めております。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月25日 定時株主総会	普通株式	473,272	17.00	2021年11月30日	2022年2月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が、基準日現在に所有する当社株式373千株に対する配当金6,356千円及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が、基準日現在に所有する当社株式175千株に対する配当金2,985千円を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年7月14日 取締役会	普通株式	369,409	13.50	2022年5月31日	2022年8月9日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が、基準日現在に所有する当社株式373千株に対する配当金5,039千円及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が、基準日現在に所有する当社株式164千株に対する配当金2,225千円を含めております。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結財務諸表計上額 (注)2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,638,044	4,079,188	2,507,776	21,225,009	-	21,225,009
セグメント間の内部売上高 又は振替高	860,556	1,078,157	25,468	1,964,182	1,964,182	-
計	15,498,601	5,157,345	2,533,244	23,189,192	1,964,182	21,225,009
セグメント利益	670,258	147,977	49,616	867,853	91,988	775,864

(注) 1 セグメント利益の調整額 91,988千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 99,599千円、その他7,610千円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結財務諸表計上額 (注)2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
アパレル関連	5,434,191	2,665,632	2,468,123	10,567,947	-	10,567,947
プロダクト関連	8,603,897	352,043	25,692	8,981,633	-	8,981,633
輸送関連	2,070,761	1,079,910	506,829	3,657,501	-	3,657,501
顧客との契約から生じる収益	16,108,850	4,097,585	3,000,645	23,207,081	-	23,207,081
外部顧客への売上高	16,108,850	4,097,585	3,000,645	23,207,081	-	23,207,081
セグメント間の内部売上高 又は振替高	919,484	1,490,219	38,323	2,448,027	2,448,027	-
計	17,028,335	5,587,805	3,038,968	25,655,109	2,448,027	23,207,081
セグメント利益	864,814	314,388	85,439	1,264,642	146,669	1,117,973

(注) 1 セグメント利益の調整額 146,669千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 101,425千円、その他 45,244千円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更等に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、地域セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「日本」の売上高は260,081千円、セグメント利益は34,804千円それぞれ減少しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社グループの事業の運営上、四半期連結財務諸表に与える影響が軽微で、かつ、四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりです。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)
1株当たり四半期純利益	19円49銭	32円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	533,685	879,944
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	533,685	879,944
普通株式の期中平均株式数(千株)	27,381	27,064

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 「1株当たり四半期純利益」を算定するための普通株式の期中平均自己株式数につきましては、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式(前第2四半期連結累計期間374千株、当第2四半期連結累計期間373千株)を含めております。
- 3 「1株当たり四半期純利益」を算定するための普通株式の期中平均自己株式数につきましては、日本マスタートラスト信託銀行(役員報酬B I P信託口)が所有する当社株式(前第2四半期連結累計期間175千株、当第2四半期連結累計期間169千株)を含めております。

2 【その他】

2022年7月14日開催の当社取締役会において、第85期の中間配当を行うことを決議しました。

- 1 中間配当額 369,409,140円
- 2 1株当たりの金額 13円50銭
- 3 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2022年8月9日

(注) 「中間配当額」には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が、基準日現在に所有する当社株式373,300株に対する配当金5,039千円、及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬B I P信託口)が、基準日現在に所有する当社株式164,840株に対する配当金2,225千円を含めております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年7月11日

モリト株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 和田 稔 郎

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 川合 直 樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているモリト株式会社の2021年12月1日から2022年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年3月1日から2022年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年12月1日から2022年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、モリト株式会社及び連結子会社の2022年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。